

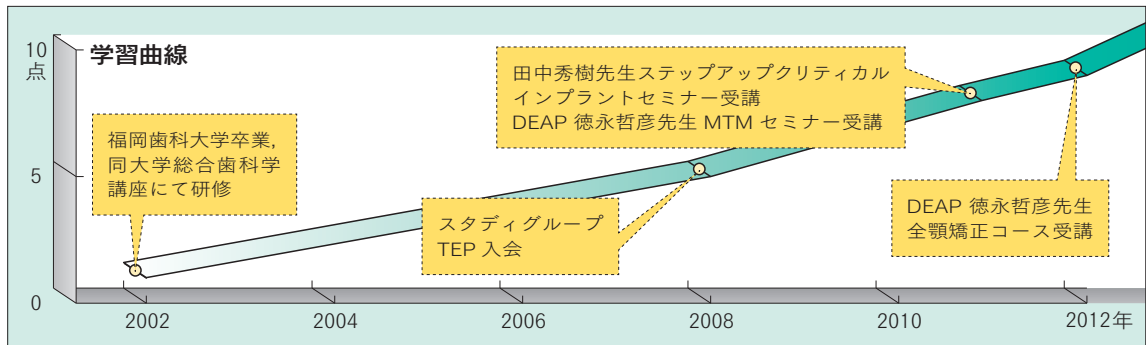
## 矯正の挺出を用いた前歯部審美治療

荻野真介

キーワード：歯肉縁下う蝕，矯正の挺出，審美治療，根管治療

### 臨床経験年数

臨床経験年数11年。2002年福岡歯科大学卒業後，同大学総合歯科学講座に1年半在籍。その後は父の病気により，実家の荻野歯科医院に勤務し，2011年9月より荻野歯科医院院長。現在に至る。日本歯周病学会，日本口腔インプラント学会，日本矯正歯科協会会員。



### 診療方針

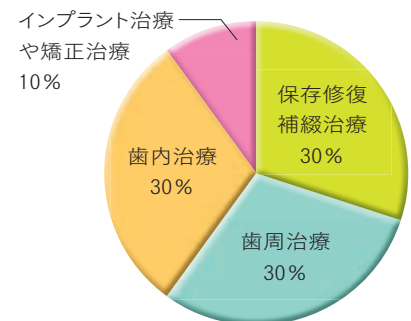
「すべての治療のベースはエンドとペリオにあり」。患者の未来を考え，ベーシックな治療ほど，力を入れて日々の臨床に取り組んでいる。

主訴の解決は当然であるが，患者の要望がすべてではなく，現状を十分に理解していただいたうえで，疾病の原因をしっかりと解決していくことが重要であると考えている。

### 日々の臨床

診療室は大通りに面しておらずめだたないが，患者は小児から高齢者まで幅広く来院する。多くの患者は中等度以上の歯周病，根尖病変，咬合など，種々の問題を抱えており，義歯の使用率も高い。患者の口腔内の意識向上をつねに考えている。総合的な知識と手技の習得をめざしており，保険診療：自費診療 = 7 : 3。

【日常臨床で頻度の多い割合】



## 企画趣旨

患者の主訴や口腔内の状態など、その背景はさまざまであるが、「1 歯の治療にこだわること」、それがすべての基本であり、はじめの 1 歩といえよう。

本欄では、患者の背景を踏まえつつ 1 歯に対する治療にこだわる若手歯科医師に、どのように診査・診断し、治療計画を立て、治療結果を得たのか、その患者と信頼関係を築くまでの過程を自己評価も含めて提示いただく。また、師匠や先輩歯科医師からのメッセージもあわせて掲載。

患者の口腔内の意識向上をつねに考える

## 荻野真介

Shinsuke Ogino

福岡県開業 荻野歯科医院  
連絡先：〒819-1601 福岡県糸島市二丈深江  
868-2  
E-mail：ogndental@ybb.ne.jp



## 初診時の状態

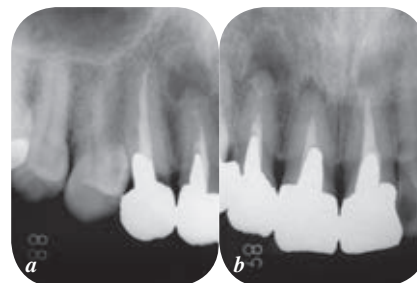


図 1a, b 初診時の口腔内正面観およびパノラマエックス線写真。全顎的に歯周病は軽度。プラークコントロールも比較的よい。上顎前装冠と CR の不適と変色を認める。

図 2a, b 2]は根尖病変, 3]は歯肉縁下に及ぶ二次う蝕により C 4 状態を呈し、この部位に食物残渣を認めた。

## 患者のバックグラウンド

■患者：52歳，男性。明るく気さくな性格。奥様が当院に来院され、インプラント治療を受けている。

■主訴：妻から「口臭がする」といわれた。

■歯科既往歴：最後の歯科受診は約 3 年前。「前歯の色が悪いと思っていたが、なかなか足が向かなかった」とのことであった。

■バックグラウンド：仕事が忙しく来院は土曜日であるが、出張などで来院できない週も多々あるだろうとのことであった。保険治療を希望されていたが、それでは 3]は保存不可能、他の前歯部も再度の変色があることを説明したところ、保険外治療を選択された。

## 診査・診断，治療計画

■どのように診査を進め、診断したか：全顎的に歯周病の状態は軽度で、プラークコントロールも比較的良好であった。3]に歯肉縁下に及ぶ二次う蝕が認められ、補綴物との間に食物残渣を認めた。このことから、口臭は食物残渣も一因であると診断し、エックス線所見でも 3+1 まで根尖病変を認めることから、慢性根尖性歯周炎、2]はコンポジットレジンによる二次う蝕 C 2 と診断した。顎位にズレはなく、顎位変更の必要はないと診断した。

■診査結果および治療計画説明時の患者の反応：3]を保存し、歯頸線を他の歯と揃えるには、根管治療後に

MTM による挺出を行い、補綴処置を行うための十分なフェールを獲得する必要がある。他の前歯も同時に根管治療を行い、3]にパワーチェーンによる挺出を行った。その際、浸潤麻酔下で根面のキュレッタージを行い、歯根膜線維を切断した。ファイバーポストを直接法でセットし、プロビジョナルレストレーションを装着後、多少の後戻りを認めたため、Ni-Ti 製ワイヤーで再度挺出した。エマージェンスプロファイルの調整を行い、最終補綴物を e.max にて製作し、レジンセメントでセットした。

矯正の挺出を用いた前歯部審美治療



図3 根管治療終了後、3の矯正の挺出を開始。



図4a, b 0.9mm線とパワーチェーンによるMTM。



図5 骨と軟組織の添加が起こらないように浸潤麻酔下で根面のキュレタージュを行い、ファイバーポストをセットした。



図6a, b 矯正の挺出後の後戻りがあり、フェルールが不足していたため、再度挺出を開始。その際、プロビジョナルレストレーションの調整を行い、クリアランスを確保した。

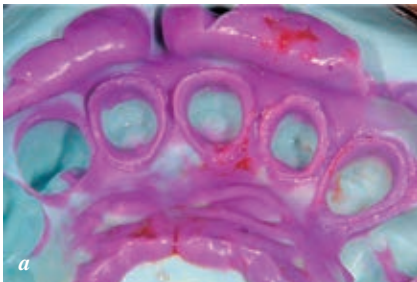


図7a, b 3は保定の意味で連結のプロビジョナルレストレーションとなっている。



図8 支台歯形成および歯肉圧排時。



図9a|図9b

図9a, b 本印象採得時。

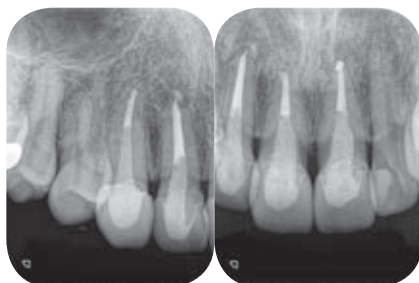


図10|図11a|図11b

図10 最終補綴物装着時(最終補綴物製作：小野浩太郎氏/デンタルアートオノ)。2もレイヤリングテクニックを用いてCR充填を行った。

図11a, b 根管治療より約半年経過。根尖病巣もほぼ消失してきている。補綴物の適合も良好である。

## 治療結果の自己評価と患者の様子

■自己評価：MTM後の保定期間が短かったため、2度の挺出を行うこととなってしまったが、それでもフェールが不足している。もっと正確な長さの挺出が必要であった。3)の補綴の形態も歯頸部が張りすぎており、歯科技工士への情報伝達をもっと改善しなければならない。また、根尖病変の経過も引き続き観察していかなければならないと考えている。

■患者との信頼関係が築けたと感じた瞬間：熱心に治

療の説明を聞いていただけ、「これからよろしくお願ひします」といっていただけたとき。

■今後の課題：1つひとつの処置に繊細さが欠けており、処置の甘さがめだつ。一口腔単位での治療に力を入れ、医院全体としても総合力を上げることで、より高いレベルでの診療が行えるように切磋琢磨していきたい。

## 先輩 Dr. からのメッセージ



荒木秀文

1989年 福岡歯科大学卒業  
1989～1991年 財団法人日本歯科研究研修協会勤務  
1992年 福岡県春日市開業  
2011年 歯学博士号取得  
ICOI 国際インプラント学会認定医, IPOI 学会インプラント指導医, 日本歯周病学会専門医, 日本顎咬合学会認定医, 日本審美歯科協会会員, 日本口腔インプラント学会

会員, 日本補綴歯科学会会員

## 〔治療方針〕

患者が生涯自分の歯で食事ができるように、予防に重点をおき、治療が必要な場合でもできるだけMIな治療を心掛けている。

## ▶ケースから感じること

荻野先生はTEP(田中秀樹氏主宰)というベーシックに重きを置くスタディグループに所属し、日々研鑽を積んでいると聞いている。一見したところ、さすがに基本に忠実な臨床を行っているという印象をもった。以下に、僭越ではあるがコメントさせていただく。

本ケースにおいて、3+1にかけての審美補綴処置を行う過程で、う蝕治療・感染根管治療・MTM等の歯周基本治療を確実にを行い、最終補綴へと首尾よくつなげてバランスのよい仕上がりとなっている。最終補綴物に隣接する2)のCR処置も質が高く審美治療に華を添える形となった。また、再度MTMを行ったように不安箇所をみつけるとすぐさま引き返し、やり直す真摯な姿勢にも好感がもてる。さらに2)1)の感染根管治療はベテラン歯科医師が治療を行っても難しいと思えるが、適切な拡大で緊密に根管充填され、かつ根尖病変も縮小傾向にあり、良好な経過をたどっているところが素晴らしい。荻野先生の器用さと治療に対する熱意・誠実さが伺える。今後の成長が楽しみである。

## ▶さらに成長してもらうためのメッセージ

最終補綴はバランスのよいできであることは前にも述べたが、誰もがみて感動するまでにはもう少し。形成・プロビジョナルレストレーション・印象等の精密さ

や正確さをもう一段階ステップアップする必要性を感じる。助言させてもらえるならば、形成において、前歯部での基本的な形成法を踏まえうえで滑らかな面に仕上げる等の配慮がもう少しほしい。そのため、コア形成時には、う蝕や充填物の除去を注意深く行い、十分な歯質の厚みを確保したうえで支台歯構築をすることが大切である。また、形成法は補綴物によって異なる。最終補綴物に応じた形成法を意識して取り組むことも重要である。つぎに、プロビジョナルレストレーション。プロビジョナルレストレーションの印象と最終印象を比較するとプロビジョナルレストレーションの印象のほうがよい部位もある。最終補綴に至るまでの歯肉の炎症のコントロールと印象・圧排の各ステップをよりよいねいに行う必要がある。また、歯科技工士が製作したプロビジョナルレストレーションに、荻野先生の工夫を加えることでさらに完成度が上がる。1)1)の歯頸ラインの対称性が得られていないのが惜しいところである。プロビジョナルレストレーションを天然歯の形態に模倣して製作することは重要であるが、最終補綴に生かすことはさらに重要である。

最終的には基本的処置の積み重ねに尽きる。それぞれのステップの精度を上げれば、さらなるレベルアップが見込めるであろう。

本欄に対するご意見・ご質問は、本誌編集部：edit-q@quint-j.co.jp までお寄せください。